

# 三毛門神楽【みけかどかぐら】



開催場所  
開催日  
指定

豊前市三毛門 春日神社  
12月7日  
福岡県指定無形民俗文化財

## 【芸能の概要】

豊前市にある6神楽講の1つ三毛門神楽講が演じる。明治10年沓川神社大宮司の高橋勝正の指導で沓川神楽講と三毛門神楽講が結成されたといわれている。明治末期に火災に遭い、古文書も神楽道具も焼失する不運に見舞われるが、地元の人達の努力で復活され現在に至る。

## 【芸能の特徴】

民俗芸能学会の柏木實氏によると豊前神楽の成立は15世紀から16世紀にかけてではないかと推察されている。明治10年頃、沓川神社大宮司の高橋勝正の指導で沓川神楽講と三毛門神楽講が結成されたといわれているが、高橋家やその詳細については不明。

出雲流神楽(採物・能神楽)を主体としながらも伊勢流神楽(湯立神楽)と修験道文化がミックスされた豊前独特の神楽形態といえる。江戸時代中頃以降に仮面を用いた演劇性の高い神楽が豊前神楽に取り入れられたという。漁師町の気風を反映してか、舞いの動きは荒々しく激しい。そのため衣装の袖口を少し大きくするなどの工夫がみられる。三毛門神楽には蛭子(えびす)神楽という観客を巻き込んで一体となる舞いがある。これは無病息災を願う滑稽さが持ち味で昭和30年に山縣正勝さんと倉垣浩さんが創ったオリジナル神楽である。今では三毛門神楽では一番有名。

## 【使用する祭具・道具など】

三毛門の神楽面はいつのものか不明であるが、豊前市の中で一番古いといわれる。囃子は神楽に合わせ他の神楽よりも調子は早く大胆である。囃子は出囃子、ひん舞い、はやものの3段階がある。奉納神楽の一つ「大蛇退治」大蛇全体をワラで作るもので全国でも珍しい。大蛇は三毛門神楽講の人が毎年新ワラで作る。

## ・アクセス

JR三毛門駅から車で3分

## ・周辺の観光

豊前温泉「天狗の湯」、天地山公園、求菩提温泉「ト仙の郷」、求菩提資料館、犬ヶ岳ツクシシヤクナゲ自生地(国指定)、岩洞窟壁画、畑冷泉「遊の里」

5月1日 犬ヶ岳山開き

6月上旬 ホテル祭り&ふれあい市

11月第2土曜・日曜 豊前市カラス天狗祭り

## ・近くの特産品

豊前茶、ゆず、レタス、川底柿、豊前カキ、豊前本ガニ、豊前本コチ

